韓国研修レポート

愛知学院大学　薬学部　21A044　計良桃子

今回3泊で韓国の製薬企業、薬局、薬学部を訪問した。2日目の漢陽大学病院を訪問した際に、実際に漢陽大学病院で働いている薬剤師の方や、実習を行っている学生の皆さんにお話を伺うことができた。漢陽大学病院の病床は801床、1日の外来患者数は約2500人、入院患者は約600と大きな規模の病院に対して薬剤師は26人であり、夜勤のみを行う薬剤師が6であるという。これは入院患者 119名に対して薬剤師が1人配置されている。日本でも100床以上の病院および大学病院では、入院患者70名に対して薬剤師を1人以上、その他の病院では、入院患者150名に対して薬剤師1名を配置するように定められているため、日本と韓国では大きな相違は見られないことが分かった。漢陽大学病院はリウマチに特化しているため、海外からの患者も多く特にロシアからの患者が多い。しかし、保険対象外となるためお金持ちの方しか医療を受けられないという。漢陽大学病院で研修している学生さんは、漢陽大学病院実習を行った後、そのまま残って研修を行おうか他の薬局や病院に行って研修を行うかを選ぶことができる。また、韓国における薬剤師の社会的地位は、日本よりかなり高いため人気が高く、韓国内における薬剤師資格の取得は数年遅れるイメージがある。韓国内の薬学部はかつて4年生であったが、2010年からは6年制に移行しており、そのあたりの動きもだいたい日本と同じである。

漢陽大学病院連携薬局でも薬剤師の方にお話を伺うことができた。この薬局では大学病院からの処方箋が1日約600枚で、院内処方箋はこない。薬剤師4人補助8人その他4人計16人の職員が働いていた。現在はコロナの影響で一気に6から8か月分の薬をもらう患者が多い。また、韓国では若い内から健康を意識する人が多くそれに関連する処方箋が130から200枚ほどくる。韓国でも服薬指導が大切であり、アイスブレイキング、ファクトファインディング、デリバリングインフォメーション、確認、ご挨拶の5つを意識して業務を行っているという。韓国の薬剤師は日本と比べて冷たいイメージがあったが今回訪問してみて韓国の薬剤師も患者とのコミュニケーションを大切にしているのだと感じた。韓国では OTC 医薬品の規模が小さく処方箋の規模が大きいため、日本のように一般のかたでももっと気軽に医薬品を買えるともっと韓国医療向上につながると考える。

韓国の薬学部の学生さんたちにサムギョプサをごちそうになった。サムギョプサルの美味しい食べ方や焼き加減を教えてくれたためとてもおいしかった。韓国の目上の方からお酒をもらうときの作法など韓国文化にも触れることができた。お友達になることができたため、日本に観光に来る際は日本を案内したい。